

造船設計者の良心（その1）
〈日本海軍の失敗例から得た教訓〉

かつて「造船界」（昭和53年3月号）に「造船よもやま話」が掲載され、そこに海軍の技術者の大先輩である松本喜太郎氏が表題のような記事を掲載されたことがある。その論述を再読してみると、今でも大変多くのことが教えられると考えたのでシリーズで紹介することとする。（以下原文のまま引用）

【はじめに】有益であった二つの事件

私は、昭和3年に大学を卒業し、すぐに海軍に勤務、終戦まで造艦に携わってきた。その間いろいろなことを経験したが、省みると、成功よりも、むしろ失敗の記憶の方が、まざまざと思い出される。そこで、海軍時代に経験した失敗のケースから代表的なものを紹介し、いわば、さんげ話をしたいと思う。参考になることがあれば幸いである。

私が大学を卒業した昭和3年は、不景気のどん底であった。昭和6年に「満州事変」、翌7年には「5. 15事件」、11年には「2. 26事件」と続き、12年の「上海事変」、さらに「日華事変」につらなり、16年の太平洋戦争へと発展、4年間の戦の後、矢尽き刀折れて、敗戦となったわけで、まことに騒然とした17年間であった。この間、海軍としては不幸な出来事であったが、私にとっては、大変に有益な経験をさせてもらったと思うことがあった。というのは、造艦技術上の基本性能について、日本海軍の造艦史上、かつてなかった大失敗という不祥事件の発生に直面したのである。昭和9年の水雷艇「友鶴」転覆事件と翌10年の特型駆逐艦の船体切断事件の二つがそれである。

この二つの事件は、船が海上に存在しうるために最も大切な基本性能のスタビリティとストレングスという二つの問題で大失敗を起こし、いわば飛べない飛行機を作ったのと同じになり、船という意味を失ったものを建造したことになった。これはスピードが設計の目標まで出なかったというような問題とは失敗の性質が根本的に違っている。このような重大なミスが、あのしっかりした組織と陣容を持っていた海軍技術陣のなかで何故起こったのであろうか。

失敗事例の発生原因を追究していて感じたのであるが、技術陣の技術力が未熟のために失敗したとすれば、それは、弁解のしようがない恥ずかしいことで問題外である。ところが、一応の技術レベルに達し、正常な判断力と理解力とをもった人たちが実務面でどうしてあのようなことをしたのかと思うような失敗をしばしば引き起こしてしまう。その源をたどってみると、技術力レベルの低さではなく、結局その技術者の心の使い方の未熟さという点にぶつかってくると思われる。

このことに関連して、今回はスタビリティの問題に触れ、ストレングスの問題は別の機会にゆずりたい。

【日本海軍の造艦計画】

本題に入る前に簡単に日本海軍の造艦計画の経過についてふれる必要がある。

明治維新で目を開かされた日本は、着々と近代国家の建設を進めたが、軍備について特に力を入れたのは海軍であった。ことに日露戦争後の日本海軍の兵力増強のスピードアップに払った努力は大変なものであった。

アメリカ海軍の保有量からみれば、日本海軍のそれはまるで比較にならないほど小規模であったが、アメリカは日本の海軍力が伸びることに非常に神経質になっており、自らも海軍の建艦拡張に力を入れだした。日本は近代国家に成長していくために、アメリカと対等の海軍力を持つなどとは考えていなかったが、国力相応の軍備を整備したいと決意し、実行に移したのである。

当時アメリカ海軍は、昭和4年までに戦艦32隻、巡洋艦16隻を中心に288隻の大艦隊を建造する「32・16計画」実施の方針を打ち出していた。これに対し日本海軍には、大正9年に予算が成立した戦艦8隻、巡洋艦8隻を主力とする「8・8艦隊計画」があった。日本の戦艦8に対してアメリカは32であるから、1/4の規模でしかないわけだが、それでもアメリカは、日本を目の敵にしていた。

第一次世界大戦後、大不況が世界中を覆い、アメリカもついに「32・16計画」を実行する財政的余裕がなくなってきた。そこで、アメリカは外国を引っ張り込んでの世界的な軍備の縮小を考え、大正10年のワシントン軍縮会議開催へと働きかけた。日本も財政的に苦しかったので、これに同意し大正11年にワシントン軍縮条約が成立した。第1表のように、大正11年のワシントン条約成立以前に、すでに「8・8艦隊計画」に基づいて戦艦「長門」、「陸奥」が竣工していたが、この両艦は平賀先生の設計になるもので、その性能は非常に優秀、それゆえにイギリスやアメリカは、これを廃艦リストに組み入れようと目論んで随分と努力したものであった。日本はワシントン軍縮条約の結果、戦艦保有比率を対米英、5：5：3に抑えられたので、海上兵力の主力である戦艦の保有量の不足を優秀な巡洋艦建造で補おうと決意したのである。

〈第1表は次ページ〉

(以下次号)

第1表 軍艦完成年と事故発生年との関連

| 完成年 | 戦艦 | 巡洋艦 | 駆逐艦 | 航空母艦 | 軍縮条約 | 発生した事故 | |
|-------|-----------------|------|---------------|------|------------|---------|------|
| 大正 9年 | *長門 | 球磨型 | 峰風型他 | | | | |
| 10 | *陸奥 | | | | | | |
| 11 | | | 若竹型 | 鳳翔 | ワシントン条約 | | |
| 12 | | *夕張 | | | | | |
| 13 | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | |
| 昭和 元年 | | *古鷹型 | 睦月型 | | | | |
| 2 | | | | 赤城 | ジュネーブ会議不成立 | | |
| 3 | | *妙高型 | 特型 吹雪 暁 | 加賀 | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | ロンドン条約 | | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | 高尾型 | | | | | 早蕨転覆 |
| 8 | | | 初春・友鶴型 | 竜巻 | | | |
| 9 | | | | | | 友鶴転覆 | |
| 10 | | | 最上型 | 白露型 | | 初雪・夕霧折損 | |
| 11 | | 朝潮型 | | | | | |
| 12 | | 利根型 | | | | | |
| 13 | | | | | | | |
| 14 | | 陽炎型 | | | | | |
| 註 | * ; 平賀設計 友鶴は水雷艇 | | | | | | |